



# DOCOMO TEAM DANDELION RACING

## Team Release

### 決勝レポート

2016/10/30 Rd-7 鈴鹿サーキット

天候：晴れ 気温：19°C 出走台数：19台

観客数：29日(土)13,000人 30日(日)21,000人

全日本スーパーフォーミュラ選手権最終戦。伝統ある JAF グランプリのタイトルも懸るこの大会、例年のように 2 レース制（午前中にピット作業無しのスプリントレース 1。午後にタイヤ交換義務付けのレース 2）で行われる。

シーズン開幕戦鈴鹿で初参戦ながら 3 位表彰台を獲得したバンドーン選手は、初めて走る第 3 戦富士スピードウェイでポールポジション、第 5 戦岡山で初優勝を獲得。野尻選手も第 5 戦岡山でポールポジション、得意の菅生で 3 位表彰台と、コンスタントにポイントを重ねてきた DOCOMO TEAM DANDELION RACING。チャンピオン争いの権利を残して、最終戦鈴鹿 JAF 日本グランプリに臨んだ。

午前中に行われた 19 周の決勝レース 1。

鈴鹿サーキットは青い空が広がり、気温 19 度、路面温度 21 度と、絶好のレースコンディション。わずか 19 周のスプリントレース注目のスタート。野尻選手はポジションキープの 4 番手。良い動き出しを見せ 5 番手争いを仕掛けたバンドーン選手だったが、アウト側の位置取り悪く 7 位キープで 1 コーナーへ。4 位をしっかりとキープし周回を続ける野尻選手に対し、バンドーン選手はペースが上がらない。後方から迫る関口選手との攻防が長く続いたが、14 周目のシケインで、関口選手は後方からバンドーン選手に追突。バンドーン選手はスピンを喫してしまう（関口選手には、危険行為としてペナルティが課された）。

結果、野尻選手 4 位、バンドーン選手 17 位でレース 1 を終えた。

決勝レース 2 は、35 周のレース。

今季最後のスタートを完璧に決めたのは、予選 2 番手のバンドーン選手。1 コーナーで首位に立つと、ぐんぐんと後続を引き離してゆく。4 番手スタートの野尻選手もポジション維持し順調に周回。半数を超えるドライバーが、オープニングラップから序盤にかけてピットインしタイヤ交換のみを済ませる戦略を取ったが、DOCOMO TEAM DANDELION RACING の 2 台は、後続との差を広げたうえでタイヤ交換と給油を行う戦略。

ところが 13 周目、野尻選手がハンドルに違和感を訴えたため、チームは 14 周目にピットインを指示。一度はタイヤ交換と給油を行って送り出したが、ステアリングトラブルによりリタイヤとなってしまった。

バンドーン選手は 16 周目にタイヤ交換と給油を行い、トップのままコースに戻った。

24 周目と 29 周目に起きたクラッシュで 2 度のセイフティカーが導入されたが、バンドーン選手は素晴らしいリストアで一度も首位を譲ることなく、最終戦を優勝で終えた。



## DOCOMO TEAM DANDELION RACING

### Team Release

40：野尻選手 決勝レース1 4位、決勝レース2 リタイヤ

2016シリーズ ドライバーランキング 9位 HONDA勢 3位

ベストではなかったけれど、予選からチャンスはあると感じていたので集中して臨みました。レース1では、車のフィーリングに少し違和感がありましたし、トップと比較してレースペースの改善が必要でした。

レース2に向けてはセットアップを変更し、フィーリングは改善していく、ポジティブにレース出来ました。ピットストップまでが勝負どころと思いプッシュしましたが、トラブルでリタイヤとなってしまいました。

運不運でしたが、年間を通していい状態を維持できたと思う一方で、もっと頑張ることが出来たという反省の思いもあります。素晴らしいチームメイトから吸収することも多く、チームは常に最良の車を準備してくれて、皆に支えられた一年でした。

皆様の声援に感謝いたします。熱い声援、ありがとうございました。

41：バンドーン選手 決勝レース1 17位、決勝レース2 優勝

2016シリーズ ドライバーランキング 4位 HONDA勢 1位

レース1では車両バランスに苦しみ、ペースを維持できませんでした。序盤から後続とのバトルが続き、フェアなブロックでポジションを維持しましたが、追突されてレースを失ったことはとても残念です。レース2にはセットアップを少し変えて臨みましたが、車はとても感触よく、スタートをうまく決めた後はひたすらプッシュ出来ました。ピット戦略も、リスタートも完璧でしたね。

日本に来て、DOCOMO TEAM DANDELION RACINGとスーパーフォーミュラを戦ってきましたが、良い時も悪い時もあり、すごくコンペティティブなシリーズで、才能を持ったドライバーがたくさんいて、僕にとってはすごく難しい1年でした。コースも、マシンも、レースも、たくさん学ぶことがあります。僕のキャリアにとって、とても良い経験になった。チームはいつも献身的にベストの仕事をしてくれたし、たくさんの人たちから、たくさん応援を受け、素晴らしい一年でした。

来年は、マクラーレン・ホンダからF1に挑みます。これからも応援してください。

ありがとう！！

DOCOMO TEAM DANDELION RACING

2016シリーズ チームランキング 4位 HONDA勢 1位